SCJ

Newsletter of Save the Children Japan

特集

生きる・育つための教育

海外事業―就学前教育支援
国内事業―防災教育教材の開発



Vol.63
June 2014

Save the Children JAPAN

生きる・育つための教育

セーブ・ザ・チルドレンでは、乳幼児の発達と就学前教育の支援を大切にしています。そもそも就学前教育とは何でしょうか。なぜ就学前教育への支援が大切なのでしょうか。そして、そのためにどんな支援ができるでしょうか。今回の特集を通して、皆さまにその重要性を知っていただけたら幸いです。

就学前教育支援

なぜ必要なの？



「教育」と聞くと、小学校から始まるいわゆる「基礎教育」のことを指すと思いがちです。しかしながら、子どもたちの教育は小学校に入って初めて始まるのではなく、それ以前から様々な形で始まっています。この世に生を受けてから、ときには母親のおなかの中にいるときから、様々な刺激を受けることで、子どもたちは身体的な発達だけではなく、認知的・社会的・情緒的にも日々成長・発達しています。その意味で、誕生から小学校に通い始める前の5歳あるいは6歳までの時期における子どもたちのケアや教育で、発達に主眼を置いたものは、広く「就学前教育」と呼ばれています。また、その取り組みの対象は、子どもたちだけに限らず、子どもたちの保護者を対象にした活動や、地域社会での子育てや子どものケア、施設での保育や学びも含まれます。日本でも、小学校に入学する前に保育園や幼稚園に通うことが多いですが、これらも就学前教育のひとつといえるでしょう。



ブラジル、ペトロリーナの保育園の子どもたち
セーブ・ザ・チルドレンは、ブラジル北東部に位置するペルナンブーコ州とバイーア州の 37 都市で就学前教育の事業を実施しています。教員への子どもの権利に関するトレーニングを通じ、地域社会や家庭で子どもたちが保護され、尊重されることを目指しています。

就学前教育とは？



人間の脳は5歳に達するまでに80％が形成され、その後の成長を左右します。つまり、子どもたちがこの時期に安心・安全に暮らすことのできる環境は、子どものその後の発達に大きな影響を及ぼします。例えば、義務教育が始まる前に友達と遊んだり、先生と一緒に学んだりした経験は、小学校に入学してから、先生の話をきちんと聞くことができたり、鉛筆をちゃんと使うことができるといった「就学レディネス」と呼ばれる、学校での教育についていくための素地を育みます。身体面においても同様で、この時期の子どもたちが健康に過ごすことができるかどうかは、その後の子ども時代、そして大人になってからの健康面に影響を及ぼします。例えば、病気にかかりにくくなったり、精神的に安定したりといった、肉体的・精神的に健全な発達を促すことにつながるのです。このように、就学前教育には多くの意義が認められています。

どんな問題があるの？



就学前教育の重要性は、研究や国際教育協力の場においても、少しずつ認識されています。しかし、財源が乏しい国では、初等・中等教育を優先されることが多く、就学前教育は一部の国際機関やNGOによってごく小規模で実施されているにすぎないという状況があります。先進国から開発途上国への援助においてもその実績はわずかです。結果として、就学前教育の普及率は先進国で100％に近づいている一方、開発途上国では50％にとどまっています。また、就学前教育の実施は都市部に集中しており、農村部や貧困層への普及率は一層低くなっているという課題があります。

どんな活動をしているの？



セーブ・ザ・チルドレンでは、すべての乳幼児が適切なケアと教育を受けることで、その後の人生の基盤が形成できるよう、20年以上にわたり包括的な支援を行っています。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの最近の取り組みとしては、3歳から小学校入学前の子どもたちへの支援として事業国の状況やニーズに応じて、教室や水道等の施設整備、机・イスの提供、就学前教育の理解を深めるための保護者への研修等を行っています。それにより、子どもたちが安全で清潔な環境で遊び、学ぶことができる環境作りを支援しています。また、政府が就学前教育に対して十分な財政的措置を約束し、政策に盛りこむように、事業国や政策決定者への働きかけも実施しています。

各国での活動を紹介します

各国の状況とセーブ・ザ・チルドレンがどんな支援を実施しているか、お知らせします。



スリランカ

地域の復興のために



スリランカでは、内戦終結から5年がたち、戦火を逃れていた人々がようやく故郷に戻って、生活の再建に取り組んでいます。しかし、電気・通信網・道路といった社会的インフラの回復が優先されがちで、子どもたちへの支援は後回しになっている状況です。多くの就学前教育センターが戦乱の中で崩壊・荒廃したため、子どもたちは仮設テントや近くの建物、屋根や壁が壊れた施設の中で遊び、学んでいます。センターに勤める教員も、内戦中故郷を離れていて長年子どもたちに関わっていなかったり、戦火を逃れるために教育を受けられず、政府が定める資格を持っていないことも多く、子どもたちは適切な環境下で教育を受けることができません。

※「子どもにやさしい教育環境」を整えていくことで、子どもたちの心身ともに健全な発達を促し、ひいてはスリランカ北部地域復興のための人材育成・平和構築に寄与することを目指して活動しています。



センターで補助食を食べる子どもたち

注 ）子どもたちが、保育園や幼稚園の施設で遊び、学ぶことができる就学前教育のプログラムが存在し、そこで子どもたちの包括的な発達が見守られ、促される環境を指します。また、保護者や地域の人々が子どもたちの成長に関心と知識を深めてサポートしていくことや、行政が就学前教育のために政策を決定し、能力の向上やリソースの配分がよりうまくなされるようになることも含まれます。

就学前教育事業に対するセーブ・ザ・チルドレンの

4つの原則

Four principles

1. 乳幼児の発達支援
   誕生前から3歳までを対象
2. 質の高い学習環境の提供
   3～5歳対象
3. 小学校への進学・進級を支援
   6～8歳を対象
4. 就学前教育に対する意識の向上と乳幼児に関わる政策推進への働きかけ

Photographers：Genna Naccache, Evan Schuurman, Chris de Bod, Colin Crowley / Save the Children, Save the Children and Save the Children Japan

ここでは皆さまにNGO用語を紹介していきます。

各国での活動を紹介します

各国の状況とセーブ・ザ・チルドレンがどんな支援を実施しているか、お知らせします。

アフガニスタン

地域住民とともに



積み木で遊ぶ子どもたち



Afghanistan

アフガニスタンでは、就学前教育を行う場所や設備・人材・教育の中身のすべてが不十分であり、手を付けられていないというのが現状です。先生役を担っているのは地元の女子高校生です。研修を行い、ボランティアで週2回子どもたちの相手をつとめています。また、地域の人々や保護者（特に母親）も活動に参加しています。本事業では、地域住民の住まいを一部お借りし、必要な遊び道具や暖房の燃料などを提供しています。普通の民家のため、庭に洗濯物が干してあったり、部屋の隅に布団が積み重ねられていたりしますが、保護者向けに「上手な子育て研修」を行い、家にある材料を使って人形等を作っています。母親同士が集まって作業することを通して、母親同士が話をする機会にもつながります。これらの地域での活動によって、教育の重要性がじわりじわり浸透していきます。

モンゴル

モデルとなる幼稚園を目指して



休み時間に友達とおままごとする女の子



Mongolia

モンゴルでは、就学前教育のアクセスが拡充する一方で、教育の質が問題となっています。どの公立幼稚園も定員を大幅に超える子どもを受け入れており、子ども一人一人の主体性を尊重し、それぞれの成長に配慮した対応ができません。いまだに体罰が「しつけ」という名目で黙認されている現状があります。政府は幼稚園に対し、年間指導計画の作成や、保護者に対する情報公開のシステム化を促していますが、幼稚園側の対応は十分とはいえません。また、公立幼稚園のトイレ・手洗い場は不衛生で安全性に問題があり、トイレの改修工事が進んでいますが、大人用の便座や手洗い場が設置され、危険な洗剤を収納する戸棚がないなど、子どもにやさしいデザインとなっていません。こうした状況を受けて、現在、幼稚園・保護者・行政・教育機関と協力しながら、幼稚園職員への※「ポジティブ・ディシプリン」研修普及・保護者会の立ち上げ・教育を促すデザインを持つトイレの設置の啓発と修復などの活動を通じ、「子どもにやさしい教育環境」を整備したモデルとなる幼稚園作りに取り組んでいます。

注）ポジティブ・ディシプリンとは、長期的な目標を立て、子どもの主体的な成長を支えることを目指した子育ての考え方です。



【スリランカ】助成：JICA 草の根技術協力事業 ／【アフガニスタン】助成：ジャパン・プラットフォーム（JPF） ／【モンゴル】助成：外務省・NGO 連携無償資金協力







防災教育教材の開発

東日本大震災の教訓を漫画で学ぼう！

「とっさのひとこと ― 地震・津波編 ―」



防災教育教材
「とっさのひとこと ― 地震・津波編 ―」

東日本大震災を経験した子どもと大人の声をもとに、3コマ漫画で災害時の状況を再現し、3コマ目の空白の吹き出しに入るセリフを考えることによって、登場人物の置かれている状況や気持ちを理解し、主体的に行動することを学びます。東日本大震災の教訓がたくさん含まれた漫画で学ぶ防災教育教材です。

子どもたちが災害から身を守るための知識を得るだけでなく、災害が起きた時、自分で考え、行動できる力を身につけることが重要であることを東日本大震災から学びました。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、子どもの命が24時間守られると同時に、子どもたちが主体的に防災に参加できるコミュニティづくりを目指し、子どもを通じて学校、学童保育（放課後児童クラブ）、家庭、地域が連携した防災を推進しています。

そのための活動に用いている防災教育教材「とっさのひとこと」を開発したきっかけは、岩手県と宮城県の学童保育施設などの子どもたちと指導員を対象に、NPO法人プラス・アーツと共に防災研修を行っている際に、子どもたちが「避難するときに本を持っていく。避難所で暇なときに読めるし、夜には枕にもなる」などの被災体験を語ったことでした。改めて両県の子どもや大人50名に災害時の状況、苦労したこと、役に立ったこと、工夫したことなどを聞き、伝えたい教訓をまとめることにしました。

「とっさのひとこと」では、災害前、災害時、災害後に起こりうる状況を3コマ漫画で表しています。1コマ、2コマと登場人物が置かれた状況や気持ちを理解しながら読み進め、3コマ目に空白となっているセリフをについて「自分だったら何と言うか」考えます。漫画という親しみやすいツールを用いることによって、子どもたちが防災に興味を抱き、自分や他の人の命を守るための行動を起こせるように日本をはじめ世界各地にこの教材を広めていきます。

NPO法人プラス・アーツ

神戸を拠点に、地域・自治体・企業と協働した防災教育・啓発事業に取り組むNPO法人。アート的な発想を用いたユニークな防災訓練や防災教育教材を開発、国内外へ展開している。

第6回 アジア防災閣僚会議に向けて

世界の防災に子どもの声を！



前回の会議の様子



参加した子どもたちと一緒に

3月30日～31日、37名の子どもたち同士が自分たちの経験をもとに世界の防災について考え、話し合うワークショップを開催しました。「震災による子どもたちの影響を減らすために自分が総理大臣だったら何をするか？」とのテーマでは「世界防災子ども機関をつくります！なぜなら、今、子どもがきちんと発言力を持って活動できる場があまりないから。（中略）世界中で起こっている様々な災害を経験した子どもが集まれば、広い視点から防災について考えられる」（高2・女）など震災を経験した子どもたちだからこそ考えられる意見がありました。これからも地域の一員である子どもたちが、声をあげ、社会に参加できるよう、子どもたちとともに活動していきます！

Q NGOとNPOの違いって？

A NGO は Non-Governmental Organization の 略で、政府とは異なる立場で活動する非政府組織で、NPO は Non-Profit Organization の 略で、営利を追求することを目的としない市民活動の非営利組織を意味します。

2014年
「お母さんにやさしい国」ランキング発表！

緊急時にお母さんと子どものいのちを守るために。

今年で15年目になるセーブ・ザ・チルドレンの「母の日レポート」が、5月6日に発表されました。この中の「お母さんにやさしい国ランキング」で、日本は昨年に引き続き順位を一つ下げて32位にランクされ、先進国の中では最下位という残念な結果となりました。最大の原因は女性の政治参加を表す指標である女性議員の割合が低いという点です。世界178カ国を対象に実施した今年の調査では、フィンランドがお母さんに最もやさしい国、ソマリアが最もやさしくない国という結果が出ました。最下位10カ国のうち6カ国は現在深刻な人道危機の事態に直面しており、お母さんにとって厳しい国の多くが自然災害や紛争を経験している国であるということが明らかになりました。

これらの国では、保健医療施設に適切な訓練を受けた医療スタッフがおらず、医療用品もなく、電気や水道もこない、ということが珍しくありません。こういった国でひとたび大きな災害や紛争が起きると、保健医療システムが危機的な状況に陥り、その影響をもっとも受けるのが、小さな子どもたちや妊産婦です。このような状況を避けるためには、日頃から国が保健医療に対する投資を行い、危機下において女性と子どもの特別なニーズが満たされるよう、保健医療システム自体を強化しなくてはなりません。

すべてのお母さんと子どもたちが、質の高い保健医療サービスを受けられる仕組みづくりのために、セーブ・ザ・チルドレンは世界中で政府に対する働きかけや支援活動を行っています。

＃生まれてから24時間



年間100万の新生児が生まれたその日に、たった一日の命で亡くなっています。さらに120万の赤ちゃんが、出産中に死産しています。

10人中4人以上の子どもが5才未満で亡くなっています。

年間4,000万人の女性がヘルスワーカーの立ち会いなしの出産を、内200万人の女性がたった一人での出産を経験しています。

2025年までに、全ての出産が、訓練を受けていて必要な機材を持ったヘルスワーカーの立ち会いのもとで行われるべきである。

2014年 お母さんにやさしい国ランキング

1位	フィンランド
2位	ノルウェー
3位	スウェーデン
⋮	
32位	日本
⋮	
176位	ニジェール
177位	コンゴ民主共和国
178位	ソマリア

EVERY ONEキャンペーン：セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたちが予防や治療が可能な病気で亡くなることのない世界の実現を目指し、グローバル・キャンペーン「EVERY ONE」を展開しています。
http://www.savechildren.or.jp/everyone/index.html



駐在員レポート

フィリピン台風30号 緊急支援のご報告

2013年11月8日にフィリピンを襲った台風30号（ハイエン）により、約1600万人が被災し、そのうち72％が女性と子どもでした。セーブ・ザ・チルドレンは、被災地のレイテ島とパナイ島を拠点に、3年間の計画で支援活動を行っています。活動内容は、保健、栄養、生計向上、水・衛生、教育、子どもの保護と多岐に渡り、今後は特に生計向上と子どもの保護、防災（災害リスク軽減）分野に注力していきます。



40,000世帯以上の家族にお米の配給と10,000人以上に生計を立てるための現金支給を実施しました。

100ヶ所以上の仮設教室を提供し、被害のあった学校施設を修復しました。

遠隔地の移動診察所で40,000人以上を診察。母乳育児に関わる教育やカウンセリングを行いました。

12月上旬から4月下旬まで台風30号の被災者に対する緊急支援でフィリピンに滞在しました。フィリピンは大学時代に交換留学で行ってから、常に自分にとって一番身近な途上国でした。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンに入局してからは、仙台で東日本大震災の緊急・復興支援事業に携わりましたが、今回は今までの経験を活かしつつお世話になったフィリピンに少しでも恩返しをしたいという気持ちで現地に向かいました。

パナイ島のイロイロ州にある現地オフィスで勤務しましたが、企業や個人の皆様からの助成金や寄付金が、現場で適切に使われるように管理しつつ、事業がうまく進捗するための様々な業務を行ってきました。そんな中での一番の楽しみは、現地スタッフから受益者のお母さんたちの声を聞くこと、現地スタッフが支援を通して成長していくのを実感することです。私自分もなるべく現場に足を運びましたが、同時に私たちのような国際スタッフが派遣期間を終えて帰国した後も、フィリピン人のスタッフだけで事業を運営できることを目指して仕事に取り組みました。

私が携わっていた栄養事業では、被災したお母さんたちが安心して母乳育児ができるよう支援を行っています。お母さんたちの声を聞くと、逆に支援する側である私たちの方が励まされることがたくさんありました。「日本の震災の方がずっとひどかったのにフィリピンまで来てくれてありがとう」「母乳育児をすることで、子育ての負担が楽になった」というコメントには、今までの苦労も吹き飛ばされる思いでした。

11月8日に台風が襲ってから半年がたちましたが、これからもフィリピンでは雨季のたびに大型台風や地震などの自然災害の発生が見込まれ、被災状況が悪化することが心配されています。被災した人々の生活再建となるような支援を継続すると同時に、今後の災害に対しても被災の程度が最小限におさえられ、災害を乗り越える力をフィリピンの人々が身につけられるような支援をしていくことが必要だと思います。



荒川 彩 フィリピン駐在員
（駐在期間：2013年12月上旬～2014年4月下旬）

Q アドボカシーってなに？

A 政策提言や権利擁護という意味です。具体的な政策目標を実現するために、政策決定者および同決定プロセスに影響力を持つ個人、組織に働きかけをします。

＼ スタッフの1日 ／



最近娘が生まれ、今まで以上に子どもの権利について身近に考えるようになりました。自分の子どもを含め、さまざまな状況下にある子どもたちが声をあげられるように、引き続きサポートをしていきたいと思います。

山田 心健　東日本大震災復興支援事業部 遠野事務所
プログラムオフィサー（子どもまちづくりクラブ担当）

06:30 起床
08:00 出勤
09:00 資料・備品準備

10:30 **活動場所へ移動・車中にて昼食後打ち合わせ**

岩手県山田町の子どもまちづくりクラブの活動を行うため、事務所がある遠野市から片道1時間半以上かけ、車で移動。車中にて岩手県内の大学生ボランティアを含めスタッフ同士で打ち合わせを行い、今日の活動のねらいや流れを確認します。

13:00 **子どもまちづくりクラブ実施**



週末の休みを利用して参加する子どもたち

小学5年生から高校生までの子どもたちが集合。地域の復興状況に合わせながら、2011年夏に子どもたちが考えた“夢のまちプラン”を実現するために活動する子どもたち同士の話し合いが円滑に進むよう、ワークショップを実施。

16:30 事務所に移動・車中にて振り返り

18:00 **活動のまとめ**

事務所到着後、振り返りで共有した内容や子どもたちの感想などをまとめます。毎回の活動の情報をまとめ、後日ニュースレターやホームページで発信し、地域の大人へ子どもたちの意見を共有したり、他地域での実践につなげていきます。



より良い活動のため、情報を蓄積

20:00 退勤
21:00 夕食
23:00 就寝

SCJ広場

SCJとはセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの略です。

冊子「SCJ」は、私たちの活動をわかりやすくお伝えし、
また、世界中の子どもをはじめ、SCJ にかかわるすべての人のことを
皆さまの近くに感じて頂くことを目指しています。
このコーナーでは、SCJ からのお知らせやメッセージを
皆さまに手紙を書くような気持ちでまとめました。

事業報告会・交流会のお知らせ

駐在員が一堂に会します！

日時 2014年7月23日（水）
18:30-21:00（18:00-受付開始）
第1部 18:30- 事業報告会　テーマ・教育支援
第2部 20:00- 駐在員との交流会

場所 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン東京本部事務局
（参加者多数の場合は場所の変更の可能性あり）

申込み方法
- 電話：03-6859-0068（平日9:30～18:00）
- E-mail：saveothers@savechildren.or.jp

※件名を「事業報告会参加申込み」とし、
本文に氏名・メールアドレス・電話番号を記載の上、送信ください。
※申込締切日 2014年7月17日（木）

使用・書き損じハガキ、未使用切手のご寄付 ありがとうございました！

前回のニュースレターで専用封筒を同梱し、ご協力をお願いしたところ、2,243,175 円分の「未使用・書き損じハガキ、未使用切手」が集まりました。SCJ の活動費として大切に活用させていただきます。

事務局長だより

専務理事・事務局長 千賀 邦夫



事務局長1年生の千賀です。昨年6月に就任以来、日本・海外でたくさんの子どもたちに会う機会がありました。モンゴルでは父親のように慕われ、一緒の時間を過ごすとなかなか帰してもらえませんでした。レバノンではシリア難民の子どもに会い、将来の夢を聞いたところ、多くの人の命を守るため医者になりたいとの答えが印象的でした。みなさま、私たちの活動へ共鳴いただき、ご賛同をお願いします。

Q 国連（国際連合）ってなに？

A 第二次世界大戦（1939 年～ 1945 年）後、世界の平和と安全を守り国際協力を進めることを目的として1945 年 10 月 24 日に設立された政府組織です。現在の加盟国は 193 カ国。

PARTNERSHIP INFORMATION

パートナーシップインフォメーション



世界の子どもたちに貢献できる企業を目指して

森永製菓株式会社
コーポレートコミュニケーション部 社会貢献グループマネジャー
武井 浩一 様

MORINAGA

森永製菓は、「エンゼルのつばさプロジェクト」において商品を通して、東北の子どもたちが地域の復興に向けて声をあげ、参加する活動“Speaking Out From Tohoku ～子ども参加でより良いまちに！～”にご支援くださっています。

森永製菓は、創業者森永太一郎氏が、栄養状態や衛生状態の悪かった日本で、“もっと栄養のある、おいしいお菓子で人々に喜んでもらいたい”というおもいから、明治 32 年「森永西洋菓子製造所」を設立したのが始まりです。以来115年にわたり、事業とともに子どもたちに笑顔を届ける社会貢献活動を続けています。以前、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの活動で陸前高田に伺ったとき、活動をしている子どもたちの楽しそうな顔、子どもたちがみな自分の意見をはっきり表明する姿を見て、うれしくかつビックリしました。支援を通して、子どもたちの成長に貢献していることを実感すると同時に、私たちも子どもたちとともに成長できる、そう感じました。みんなにとってプラスになる活動が社会貢献ではないでしょうか。と話してくださいました。



パートナー企業のお知らせ

「命を救うホームラン」本塁打でミャンマーに灯りを

:DeNA



株式会社DeNAグループのスポーツを通じた社会貢献活動「DeNA Sekai Egao Project」の一環として、横浜DeNAベイスターズの選手が今シーズン中公式戦でホームランを打つごとに、株式会社DeNAから太陽光で充電・点灯するソーラーランタンが、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンを通じてミャンマーの無電化地域で働く助産師に寄贈されます。照明設備の支援によって、出産時のリスク軽減に貢献します。

8月16日、今年も開催「SCJチャリティマッチ」

KASHIWA Reysol



ベトナム山岳地帯に住む少数民族の子どもたちに対する教育事業にご支援くださっている柏レイソルが、今年もSCJの冠試合「SCJチャリティマッチ」を開催します。「サッカーを通じた青少年の健全育成や国際交流への貢献」という思いのもと、試合当日はスタジアムでの募金活動やキックオフセレモニーなども予定。チケット一般販売は7/15から。

「ブルガリ セーブ・ザ・チルドレン」ネックレス発表

BVLGARI



2009年よりグローバルパートナーであるブルガリのご支援が、累計約28億円を超えました。ブルガリ セーブ・ザ・チルドレン リングの販売などを通して、23カ国の子どもたちの教育支援や貧困問題への取り組みなど多岐にわたるご支援をいただいております。そして今年、新たにネックレスを発表。56,160円（税込）のうち10,800円が寄付になります。

創業100周年記念事業 子どもたちの「食」をサポート

Uokuni Sohonsha



魚国総本社は、創業100周年記念事業の一環として、これからの100年を担う子どもたちへの支援として、ベトナムではSCJが従前より実施している栄養改善事業を、東日本大震災ではフードトラックによる「食育」活動などをご支援いただきます。また、魚国総本社従業員のチャリティ活動参加によるご支援もいただいております。



「シリアにいた頃は学校が大好きで、アラビア語が得意科目でした。
世界の皆さんにお願いです―
シリアでの争いを止め、私たちをシリアに帰してください。」
レバノンに避難しているシリア難民の女の子 / カディールさん 10歳

7

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

国際協力の日 5 / 海の日 21



「支援してもらったお金で、お母さんはお米を買うことができました。」
「学校に行くことが大好きで、2人で毎日通っています。」
洪水の被害を受けたラオス農村の双子の兄妹 / マイウォンさん、マイクウォンさん 7歳

8

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

国際青少年の日 12 / 世界人道の日 19



「難民キャンプで暮らしていても、
学校に行くことはとても大切です。
学校を卒業したら、看護婦か先生になって、
国のために役に立ちたいです。
そして内戦により壊されたものを再建したいです。」
武力紛争により国を追われた南スーダンの女の子 /
インサフェさん 13歳

9

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

国際チャリティーの日 7 / 敬老の日 15 / 国際平和の日 21 / 秋分の日 23

Save the Children JAPAN

Save the Children JAPAN
発行：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-8-4 山田ビル 4F
ご支援に関するお問い合せ：03-6859-0068（平日 9:30-18:00） 2014 年 6 月発行

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの本や教材を紹介します

『子どもの権利条約新議定書（個人通報制度）』
-子どもには世界に助けを求める権利がある！-

「子どもの権利条約新議定書（個人通報制度）」が2011年12月に国連総会で採択されました。この新議定書によって、国内における救済手続きを尽くしても権利が回復しなかった場合、国連子どもの権利委員会に救済申立を行うことができるようになります。世界と日本の市民社会の新議定書実現までの道のりと逐条解説をまとめた1冊です。



共著：森田明彦、
　　公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
発行：萌文社
価格：1,000 円（消費税別）

『ポジティブ・ディシプリンのすすめ』
親力をのばす0歳から18歳までの子育てガイド

ポジティブ・ディシプリンとは、長期的な目標を立て、子どもの主体的な成長を支えることを目指した子育ての考え方です。本書では、発達段階別に親子のよくある状況を通して、子どもの権利を土台とした 4 つの原則を用いながら、怒鳴ったり叩いたりしないポジティブなしつけを学べます。



著 ：ジョーン・E・デュラント
監修：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
発行：株式会社明石書店
価格：1,600 円（消費税別）

子どものための防災教育教材
『とっさのひとこと～地震・津波編～』
東日本大震災の教訓を漫画で学ぼう！

岩手県と宮城県で被災した子どもと大人の声から東日本大震災の教訓をまとめ、漫画で表した親しみやすい防災教育教材です。共同で開発したNPO法人プラス・アーツのホームページから無料でダウンロードできます。学校や地域などでの防災学習・研修にご活用ください。（本紙4Pでご紹介）



開発：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
　　NPO 法人プラス・アーツ
URL：http://www.plus-arts.net/tossa/

「写真から見よう！！世界の子どもたち」
フォトランゲージ教材

これまでセーブ・ザ・チルドレンが世界各国における活動で出会った子どもたちの写真を通して、日本の子どもたちが世界の子どもたちの状況を想像し、様々な思いを考えることができる教材です。学校での国際理解教育等の授業や文化祭、児童館や学童での行事、家庭学習などのリソースとして、活用ください。



発行：公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
価格：1,000 円（消費税別）※別途送料がかかります
購入・お問い合わせ
03-6859-0011（コミュニケーションズ部）

ご支援者の皆さまへ

ご住所、電話番号、メールアドレスなど、ご変更がありましたら、メール（donation@savechildren.or.jp）もしくは裏表紙左の電話番号に、必ずご連絡をお願いします。

編集後記

今回の号よりニュースレターを一新し、事業テーマに分けご報告させていただきます。事業を切り口に、活動国での子どもたちの現状と私たちの活動を知っていただければと思い、編集しました。また、終わりのページには3か月分のカレンダーを制作いたしました。子どもたちの笑顔や声を通して、私たちの活動をより身近に感じていただければ嬉しく思います。暑い夏となりますが、皆さまお体に気を付けてお過ごしください。「SCJ」編集担当／吉田 沙和子